

地域包括ケア「見える化」システム研修会 (入門編)

- Step 3 -

公立大学法人埼玉県立大学
吉田 俊之

自己紹介

●所属

埼玉県立大学 地域連携センター 教授

●委員等

厚生労働省 社会保障審議会福祉部会 委員

●研究テーマ

地域包括ケア、ヘルスケアポリシー、ヘルスケアマネジメント、社会保障

●主な研究調査、支援

(これまで)

- 介護分野の生産性向上ガイドライン等の策定、事業者への業務改善の伴走支援
- 介護分野の介護ロボット・ICT導入、導入と使いこなしの伴走支援
- 介護保険事業計画支援、介護報酬改定影響調査
- その他、文書量削減、保育部門の業務改善活動 ほか

(最近のテーマ)

- 計画策定に関する自治体支援
- リエイブルメント
- 社会福祉連携推進法人／協働・連携
- 在宅医療介護連携
- 障害者向け支援機器の開発に関する人材育成プログラム
- Co-production

研修のねらい

- ① 見える化システムの基本的な操作の習得
- ② 見える化システムを使ったグラフの描画の習得
- ③ データの基本的な読み解きの習得
- ④ データを使って事業や取り組みを育てる考え方の習得

到達目標 (初級編)

- 見える化システムを使う抵抗感がなくなる。
- 基本的な操作をスムーズに行えるようになる。
- 1つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- 2つの指標を組み合わせたグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- データ結果と事業の状況を結びつけて考えることができるようになる。

研修の構成 (初級編)

ステップ	日にち	テーマ
1	7/24	操作方法
2	8/7	簡単なグラフをつくる ー 1つの指標の読み解きー
3	8/21 (本日)	少しステップアップしたグラフをつくる ー 2つの指標の組み合わせー
4	9/4	「見える化」システムの日々の事業への活用

あなたにとってより良い研修となるために

- 目的は基礎的な操作スキルの習得です。そのため、講義的な時間よりも、皆さんと私が同時に見える化システムを操作する時間に研修時間を多く割り当てます。
- できるかぎり、画面をオンにして参加ください。
- 機能や操作を直感的に理解できるように、個別の自治体を取り上げています。特別な意味はありません。
- 発言や質問などのグループ全体への貢献を歓迎します。

スケジュール (3日目)

セッション	日にち	テーマ
1	13:30-13:32 (02分)	事務連絡／あいさつ
2	13:32-13:35 (03分)	アイスブレイク：前回の振り返り
3	13:35-13:50 (15分)	2つの指標：「つながり」を見る
4	13:50-14:10 (20分)	チャレンジ（10分）／シェア（10分）
5	14:10-14:25 (15分)	2つの指標：緩やかな因果を想定する
6	14:25-14:45 (20分)	チャレンジ（10分）／シェア（10分）
7	14:45-15:00 (15分)	振り返り／質問・感想コーナー／事務連絡

前回の振り返り

- 到達目標
 - 見える化システムを使ったグラフの描画の習得する。
 - 1つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。
- 内容
 - 学習した図の読み解き
 - ✓ 操作の体験：私の自治体の時系列の変化
 - ✓ 操作の体験：他の地域との比較

2つの指標：「つながり」を見る

1. 1つの指標では分らない

- 一つの数値だけでは見えないことがある
 - ✓ 数値の変化の“背景”や“理由”
 - ✓ 数値の変化は“良い傾向？心配な傾向？”

2. 2つの指標を組み合わせると「つながり」が見えてくる

- 散布図（さんぷず）を描く
- 分布（点の広がり）に“傾き＝つながり”が見える可能性

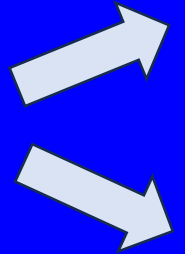
2つの指標：「つながり」を見る

3. そのグラフは何を表しているか？ → step 2 と同様

- グラフが発信する情報を受け取る

4. 2つの指標の分布の向きは？

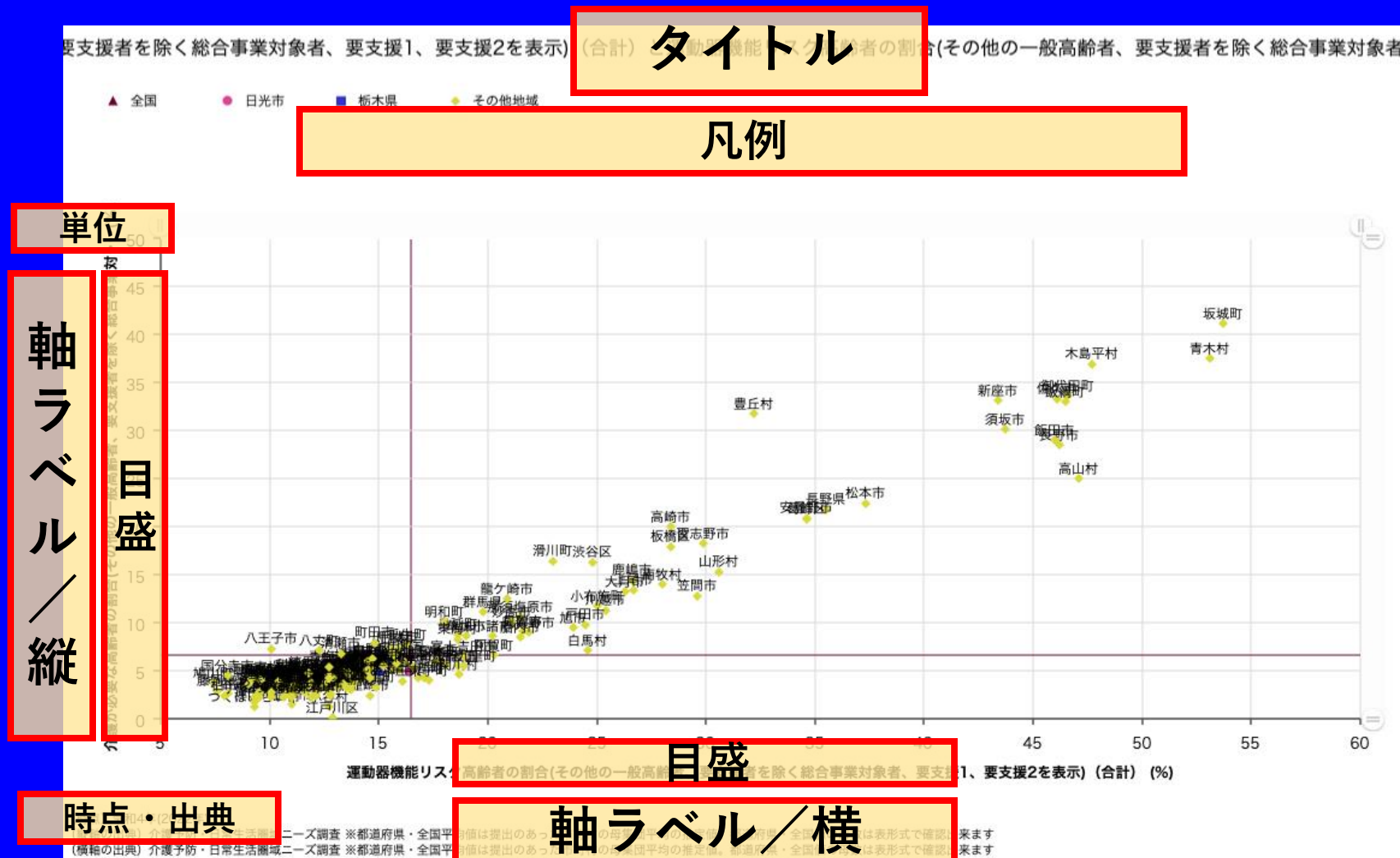
- （散布図の）左下から右上へ、右上がりの分布
- （散布図の）左上から右下へ、右下がりの分布



5. 操作的に原因と結果の関係を表現するならば、

- 右上がり：片方を大きくすると、もう片方を大きくできる可能性
- 右下がり：片方を大きくすると、もう片方を小さくできる可能性

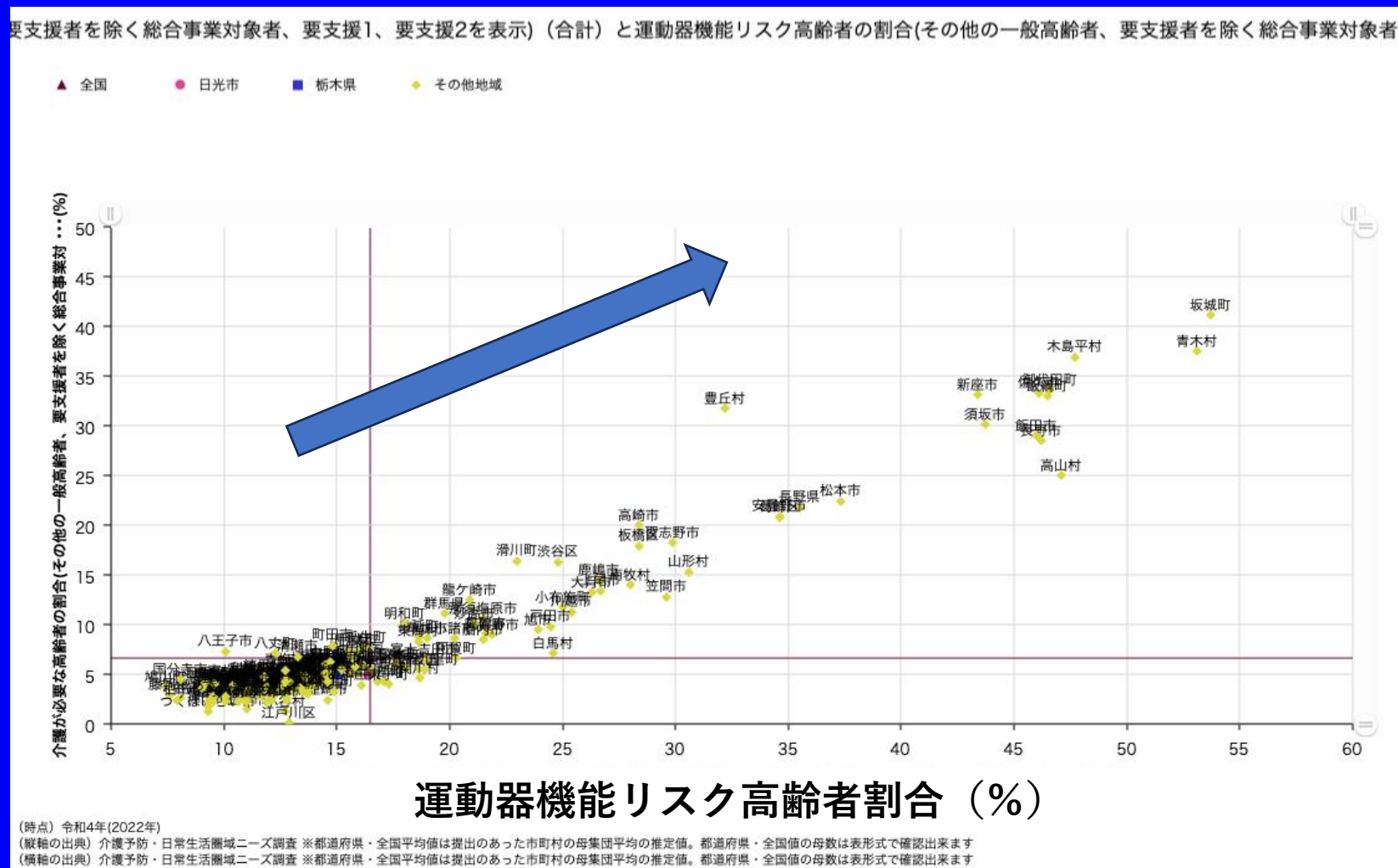
グラフを構成する8つの基本要素



分布の例

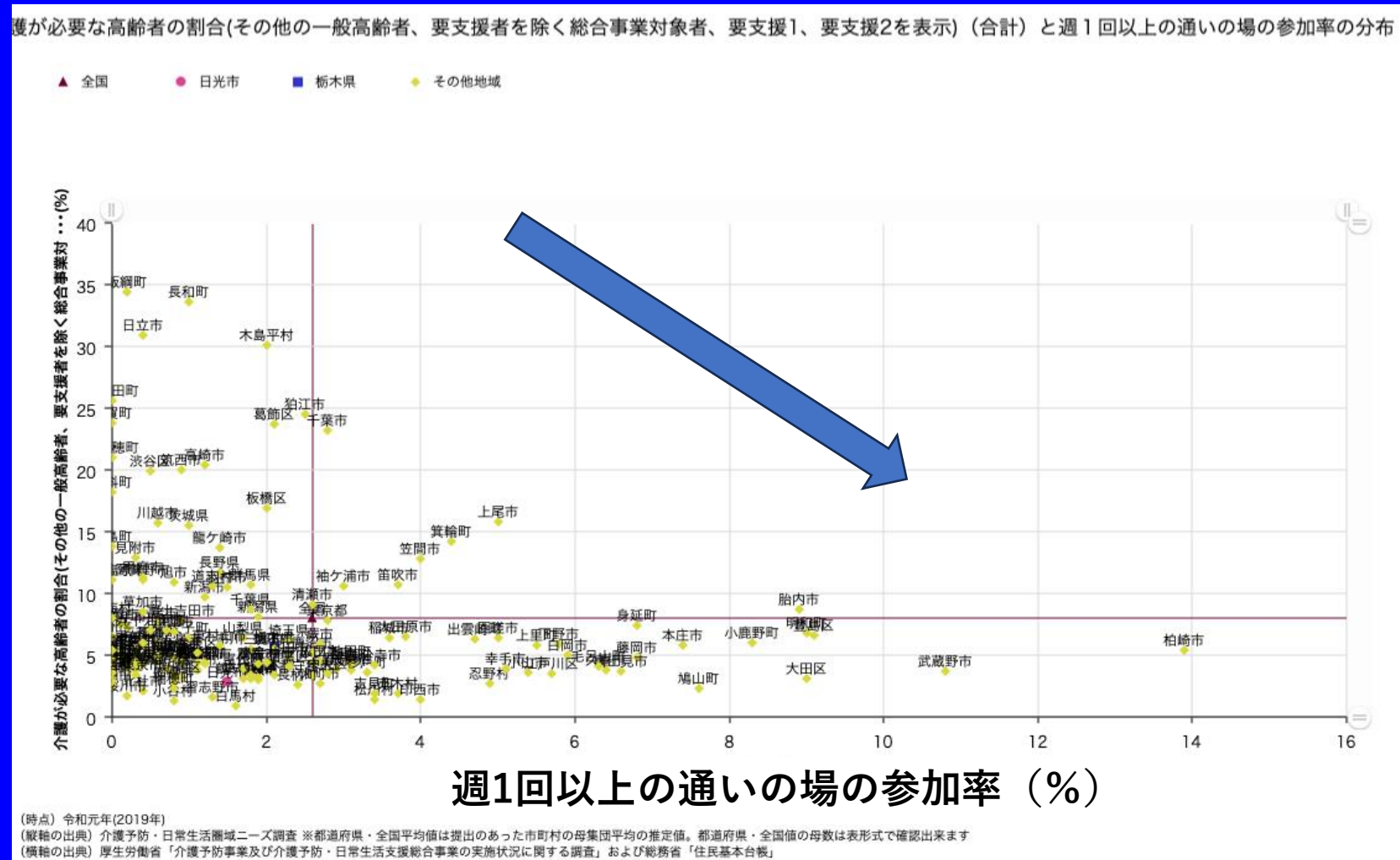
(どちらかといえば、傾きは「右上がり」)

介護が必要な高齢者の割合%

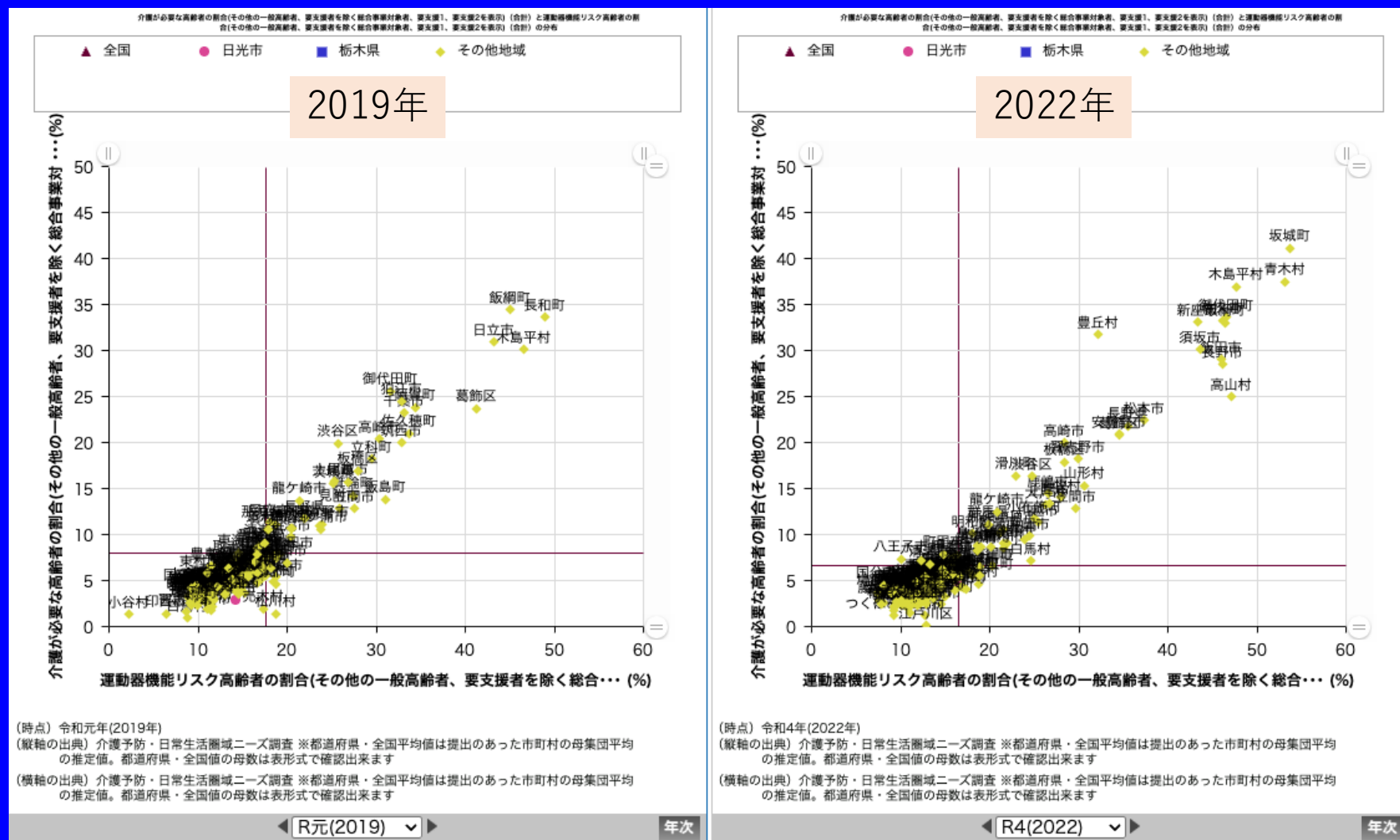


分布の例

(どちらかといえば、傾きは「右下がり」)

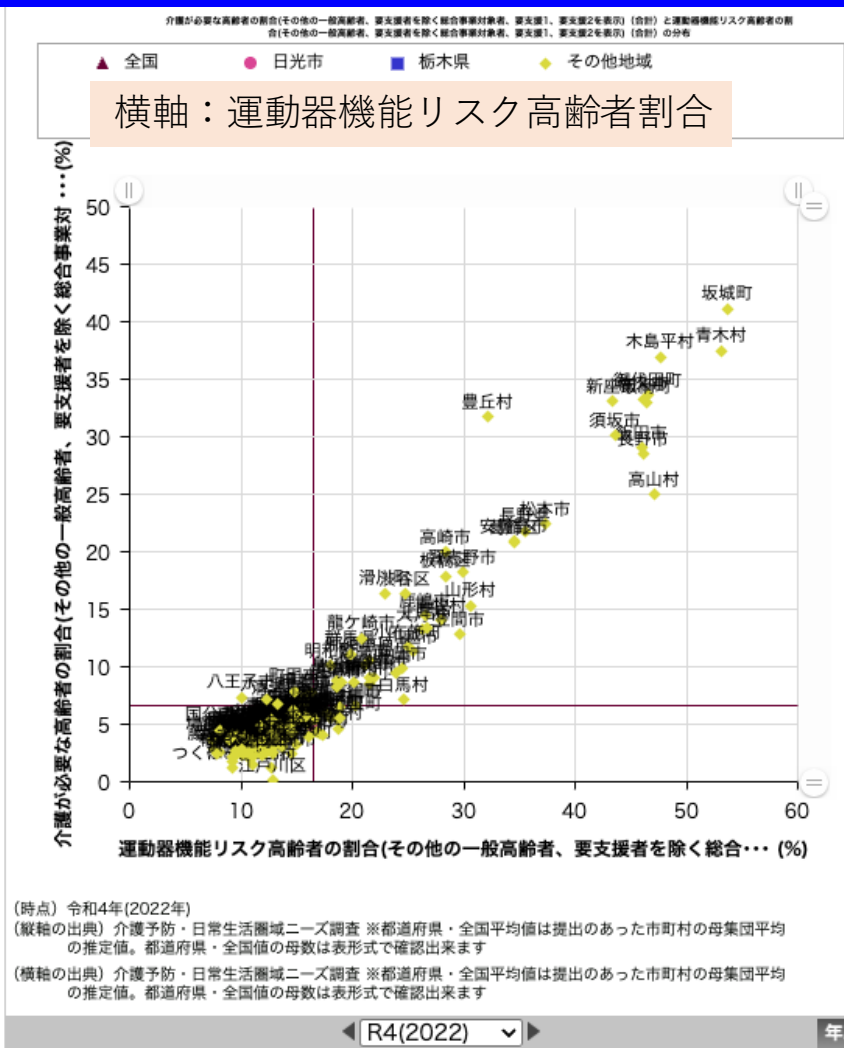
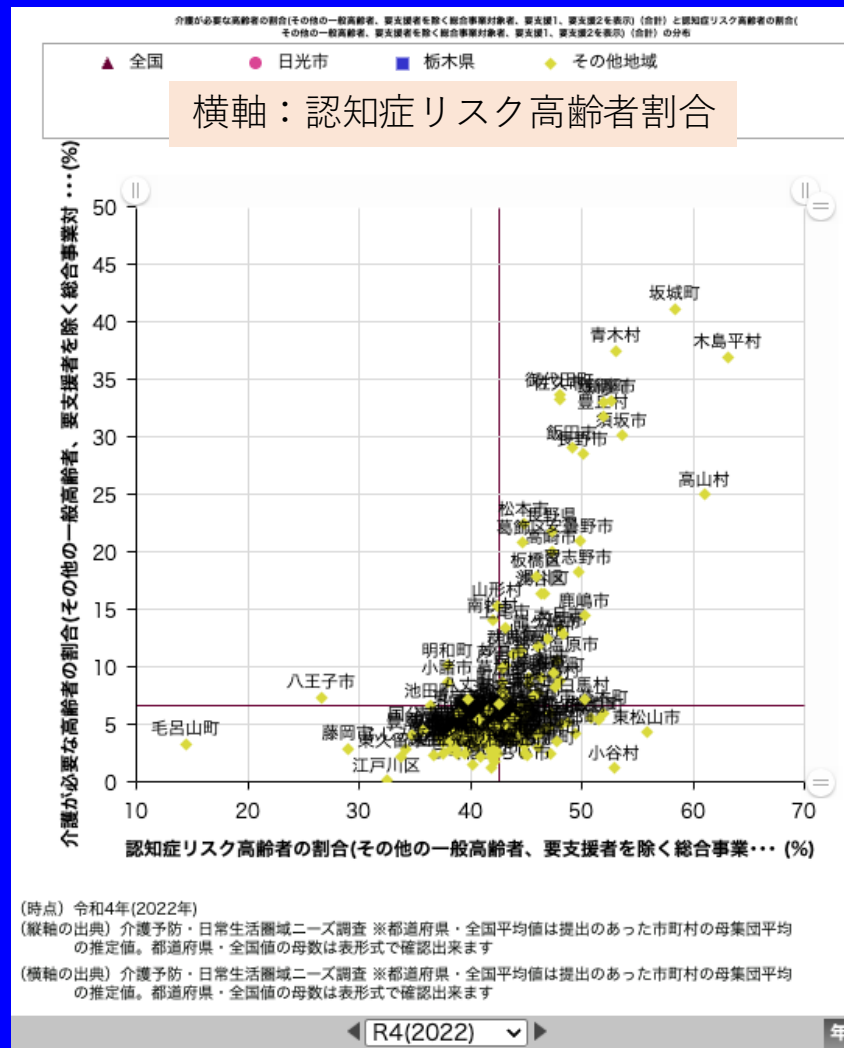


分布の例（時点の違い）



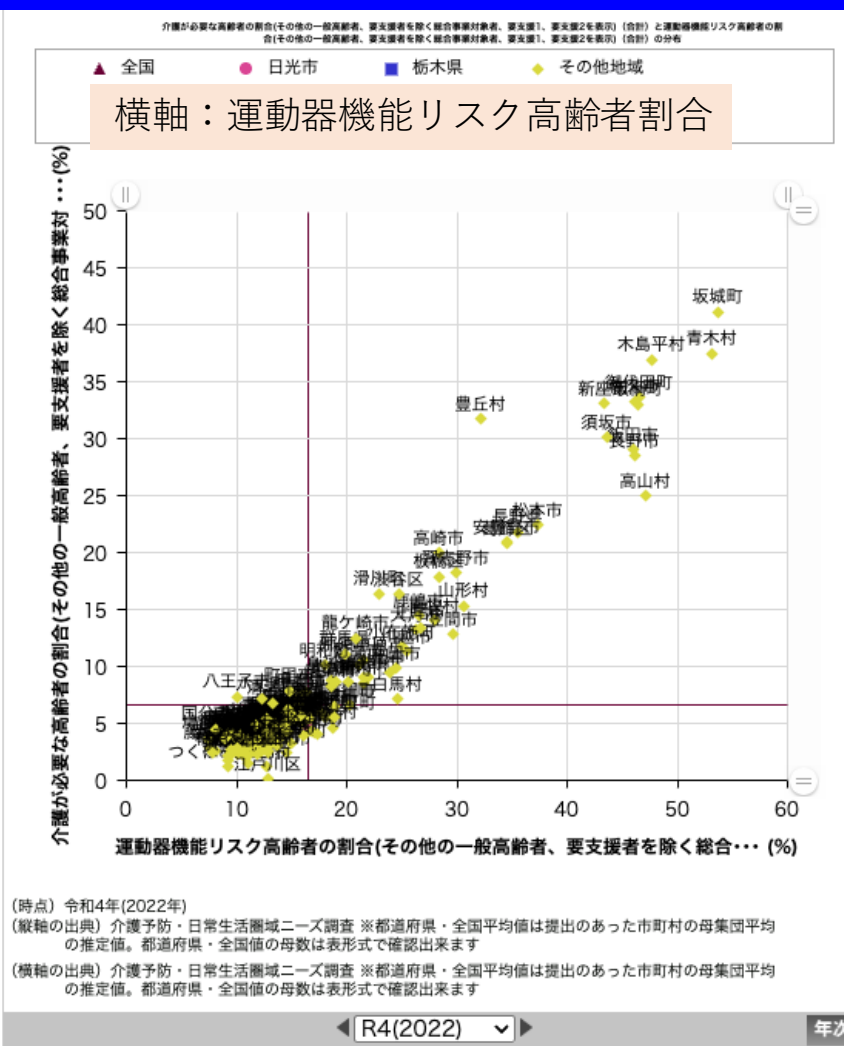
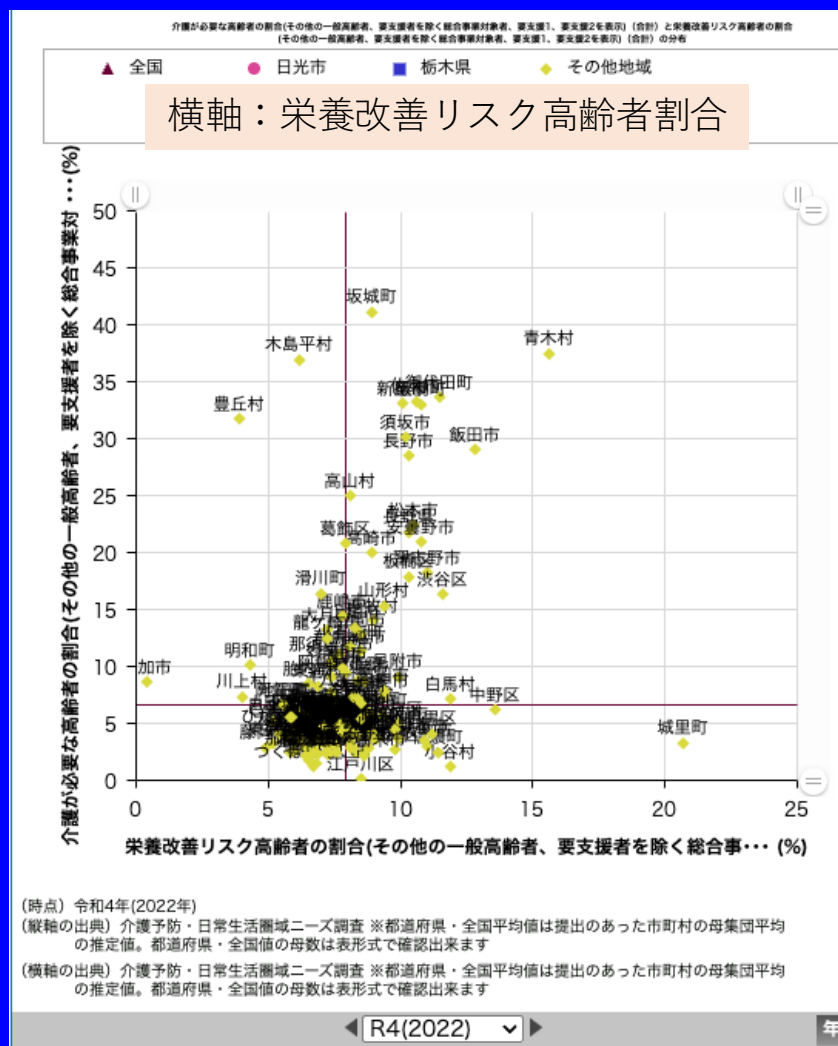
分布の例（組み合わせの違い）

縦軸はいつでも介護が必要な高齢者割合



分布の例（組み合わせの違い）

縦軸はいずれも介護が必要な高齢者割合



散布図を描く (1/5)

1. 地域を選ぶ→「地域を追加する」→隣接する4都県程度



2. 指標を選ぶ

1. 「大分類」→「ニーズ調査」

2. 「中分類」→「その他」

3. 「小分類」→「介護が必要な高齢者の割合」

4. 対象は「①+② + ③ + ④」



3. (自動で作図)

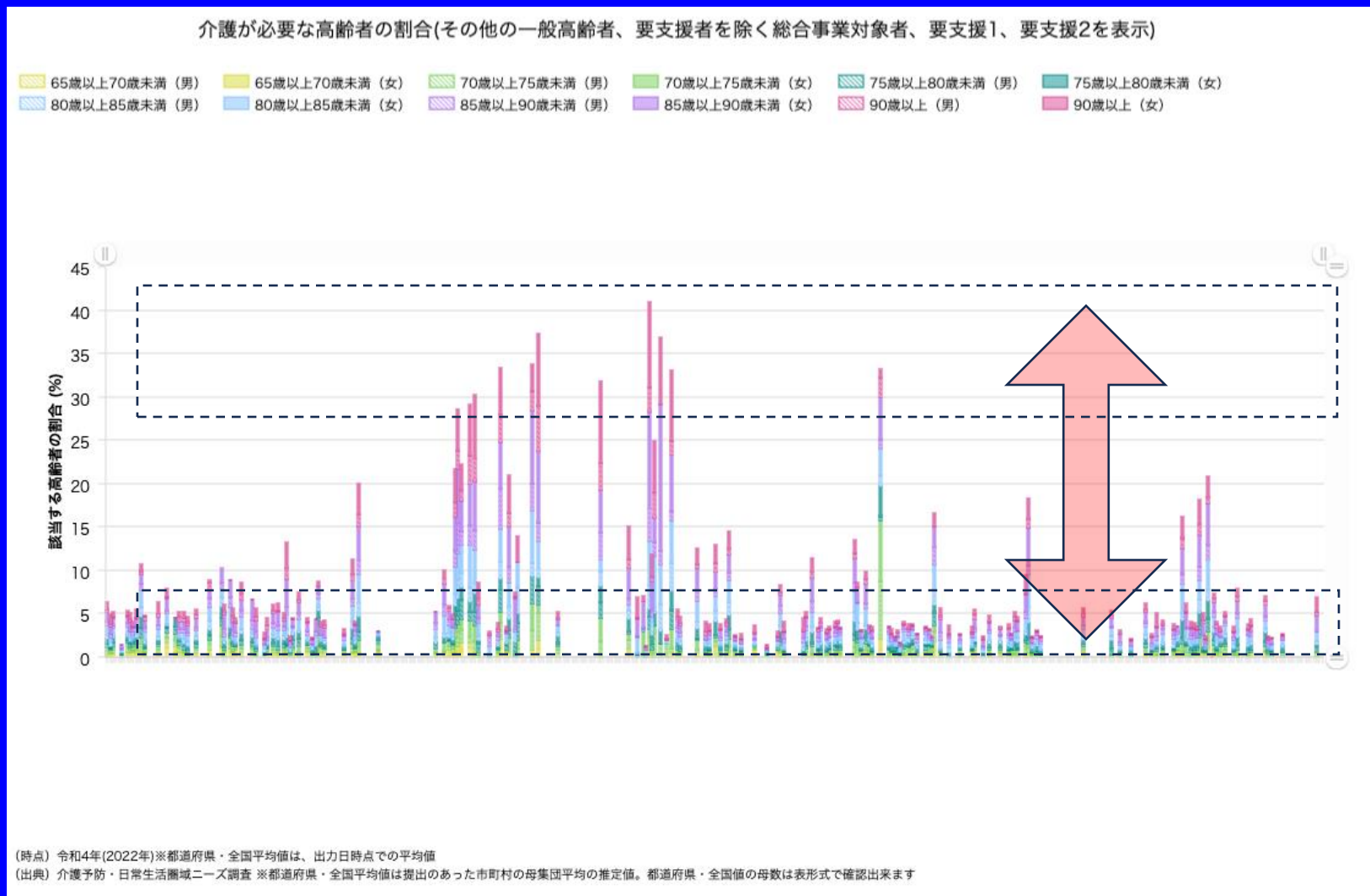


4. 「地域で見る」を選択

一緒に操作します。

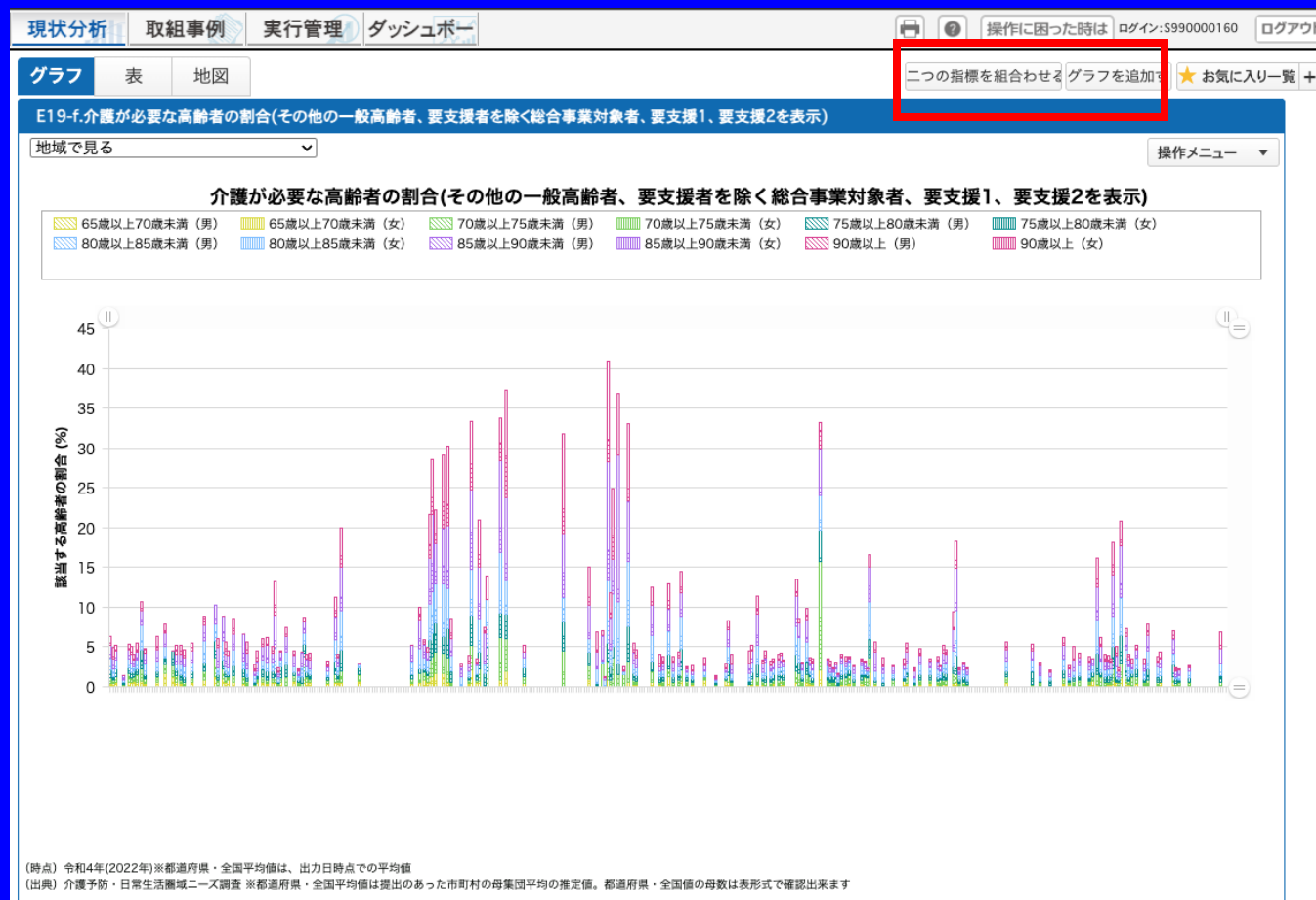
指標「介護が必要な高齢者の割合」について、
上下に ばらつき が生じているかを確認してみましょう

値が上下にばらついている状態

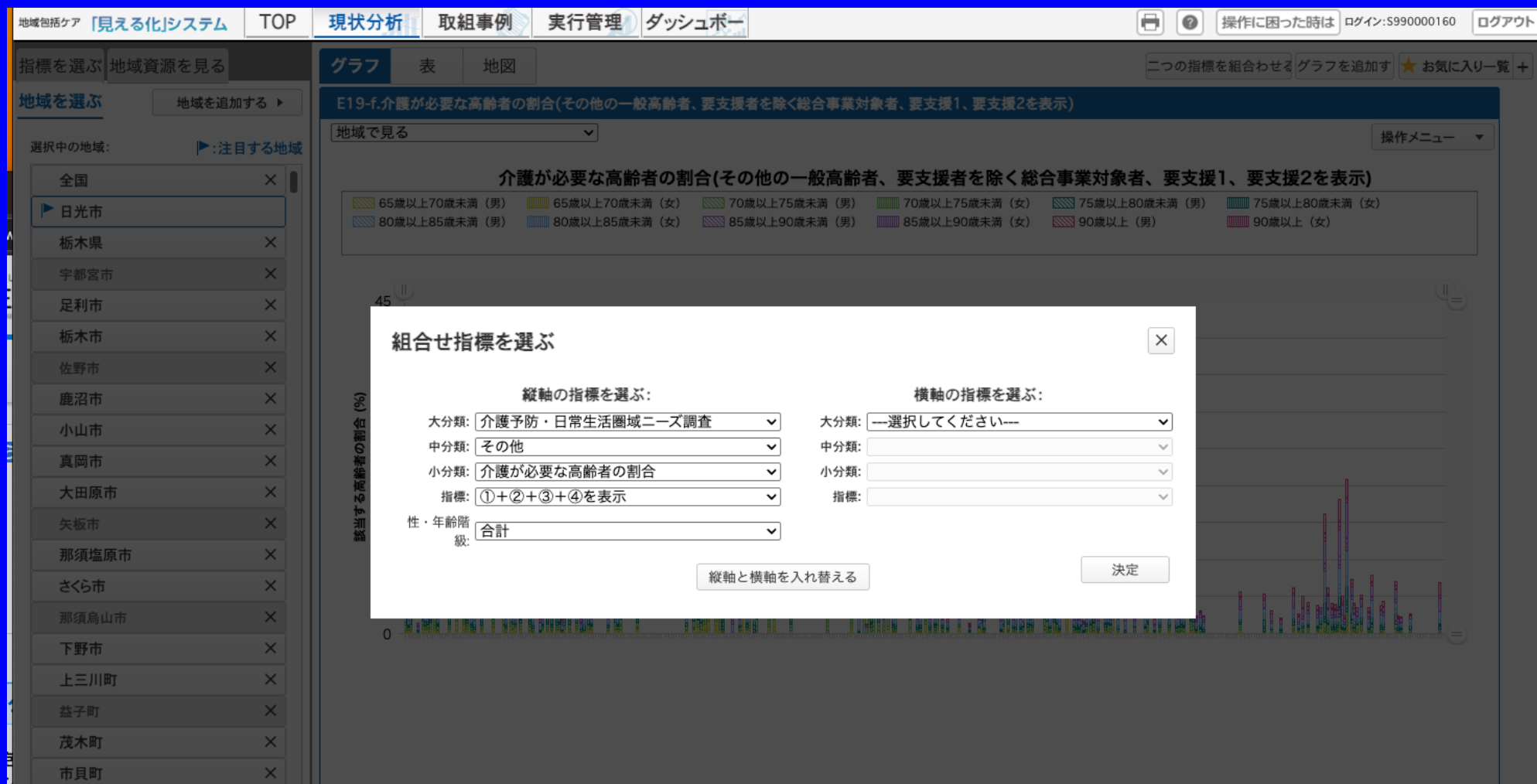


散布図を描く (2/5)

1. 「二つの指標を組み合わせる」をクリック



散布図を描く (3/5)



散布図を描く (4/5)

1. 横軸の指標を選ぶ→決定

大事

※「指標」と「性・年齢階級」は、それぞれ縦軸と横軸を一致させましょう。

組合せ指標を選ぶ

縦軸の指標を選ぶ:

大分類: 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

中分類: その他

小分類: 介護が必要な高齢者の割合

指標: ①+②+③+④を表示

性・年齢階級: 合計

①

横軸の指標を選ぶ:

大分類: 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

中分類: 各種リスクを有する割合

小分類: 運動器機能リスク高齢者の割合

指標: ①+②+③+④を表示

性・年齢階級: 合計

縦軸と横軸を入れ替える

②

決定

散布図を描く (1/5) (完成図)

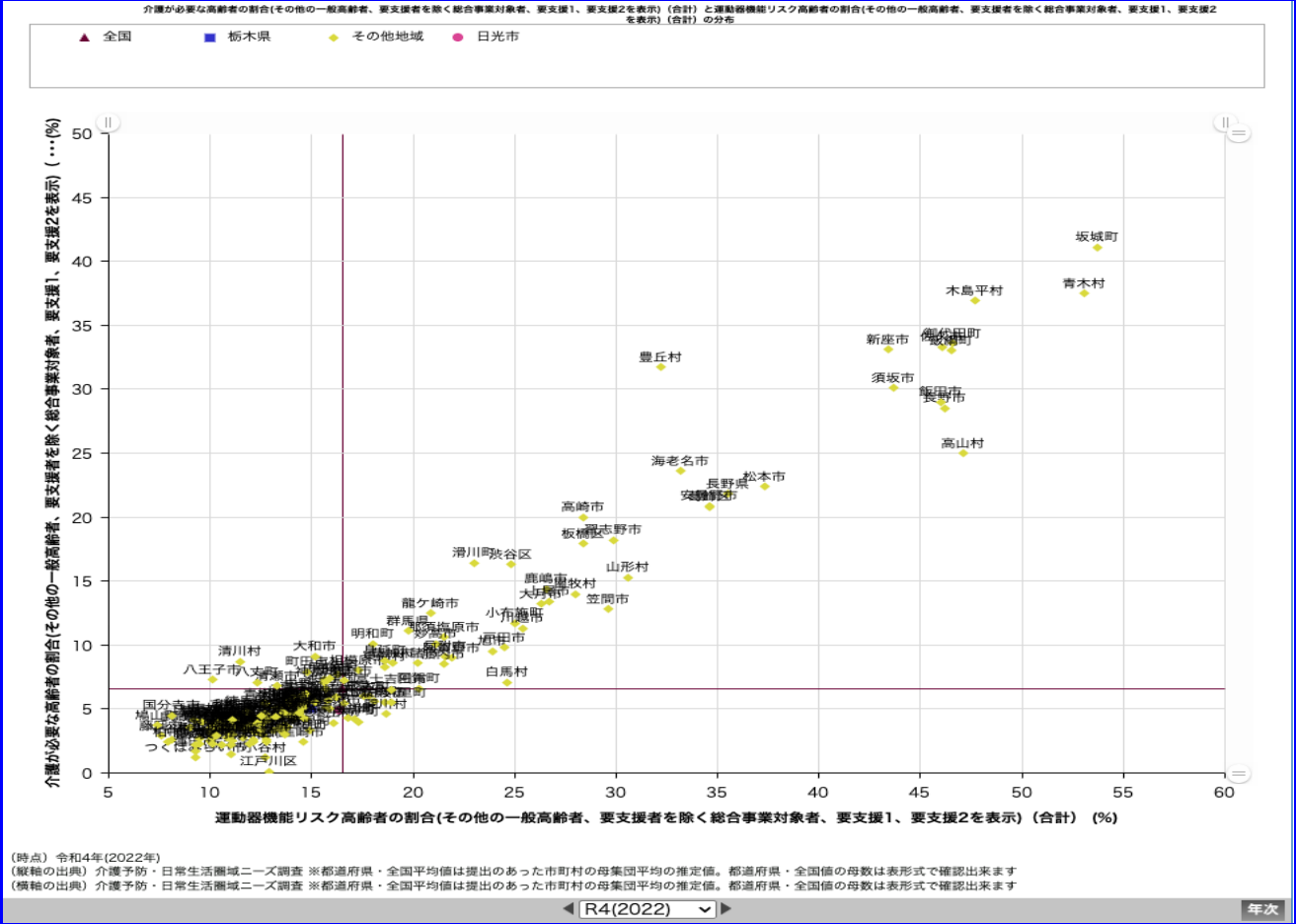
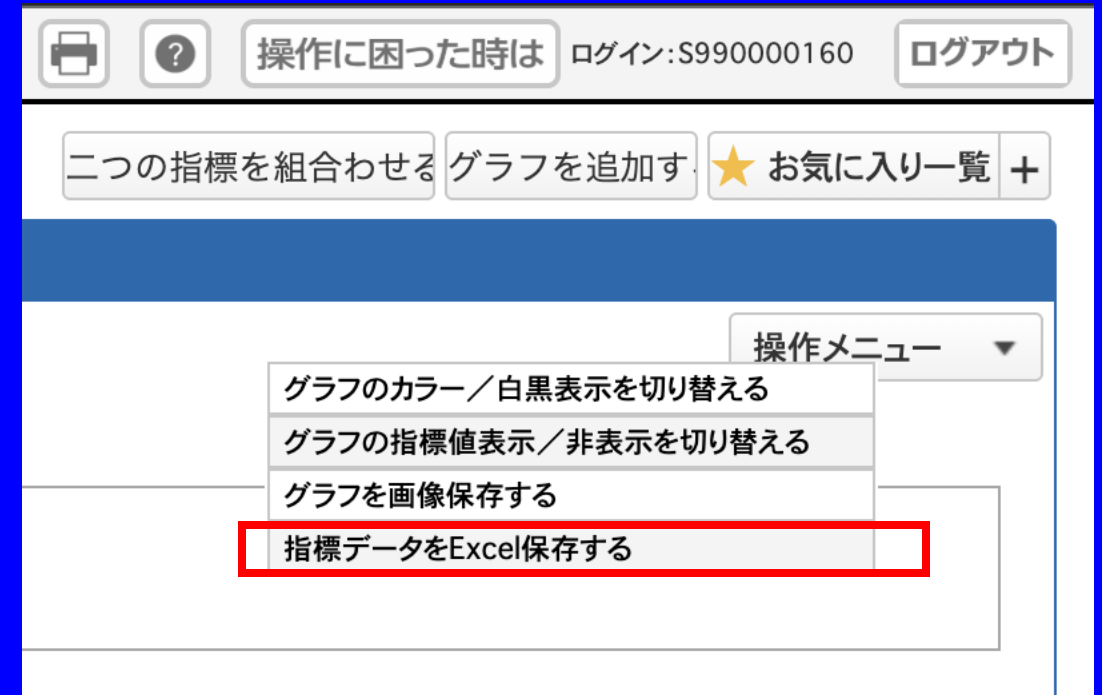


図 「介護が必要な高齢者割合」と「運動器機能リスク高齢者割合」の散布図

グラフをエクセルデータで入手したいとき

1. 操作メニューをクリック
2. グラフを画像保存する
3. 保存先のフォルダ名を確認する
4. (自動で保存)
5. ファイル名「A2_高齢化率_時系列.xlsx」を見つける



データセットのシートや出典データも用意されているので、自分で作図される方には便利な機能です。

チャレンジ 1

- 「介護が必要な高齢者の割合」を縦軸に設定し、横軸にはニーズ調査のうち「各種リスクを有する割合」から指標を選び、いろいろと試してみましょう。
- そのうち、「つながり」のありそうな散布図が描けた指標の組み合わせを紹介してください。
 - 介護が必要な高齢者の割合の指標
 - ✓ 「その他」のなかにあります。
 - 対象は、①+②+③+④
 - 「二つの指標を組み合わせる」から散布図を作図

シェア 1

1. あなたが選んだ2つの指標をグループで紹介してください。
2. まず、「画面を共有」してください。
3. 次に、グラフを説明してください。
4. 説明時間は、1分以内にまとめることを意識してみましょう。

シェア 1 (散布図の伝え方例)

1. この図は、私の自治体の「〇〇〇」と「△△△」の散布図です。
2. 横軸は「〇〇〇」です。縦軸は「△△△」を表します。
3. このグラフは、どちらかといえば、「右上がり（右下がり）」です。
4. この二つの指標には、つながりがありそうです。
5. （右上がりの場合）横軸の「〇〇〇」が増えると、縦軸の「△△△」が増える、という関係が考えられます。

シェア 1

(散布図の伝え方例 具体例)

1. この図は、「運動器機能のリスク高齢者割合」と「介護を必要とする高齢者割合」の散布図です。
2. 横軸は「運動器機能のリスク高齢者割合」です。縦軸は「介護を必要とする高齢者割合」を表します。
3. このグラフは、どちらかといえば、「右上がり」です。
4. この二つの指標にはつながりがありそうです。
5. (右上がりの場合) 横軸の「運動器機能のリスク高齢者割合」が増えると、縦軸の「介護を必要とする高齢者割合」が増える、という関係が考えられます。

ところで、指標の意味がわからなくなったときどうする？（1/3）



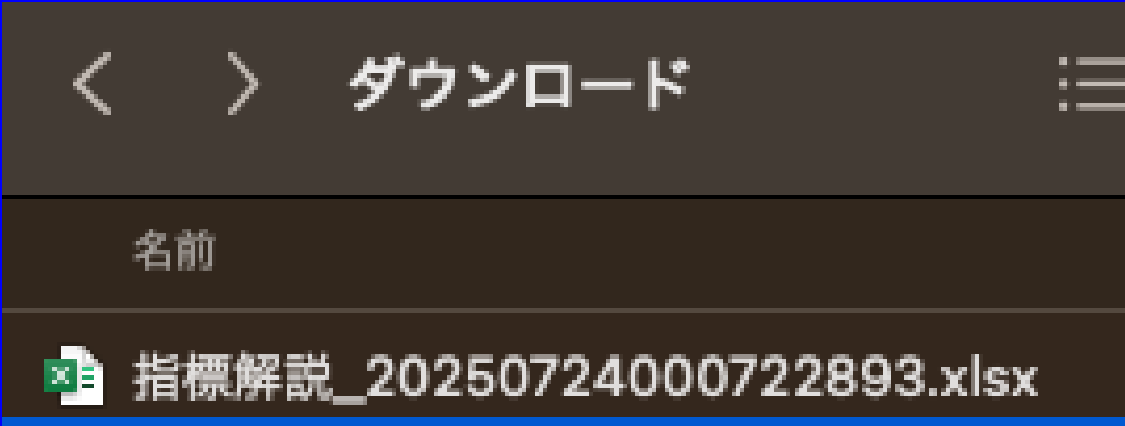
(拡大)

指標の説明を一括でダウンロードする

複数指標を選択してExcel出力する

ところで、指標の意味がわからなくなったときどうする？（2/3）

ダウンロード先を確認



1	大分類	中分類	小分類	指標	指標名	指標の内容・指標を見るポイント	指標に関する用語の説明
428	介護予防・日常生活圏ニーズ調査	各種リスクを有する割合	運動器機能リスク高齢者の割合	E1	運動器機能リスク高齢者の割合 (注目する地域及び管内日常生活圏域のみを表示)	・本指標は、各市町村から送付された第6期日常生活圏ニーズ調査および介護予防・日常生活圏ニーズ調査結果による、運動器機能リスク高齢者の割合を示すものです。 ・運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。 ・介護予防・日常生活圏ニーズ調査では、市区町村が独自に調査対象母集団を設定することが可能となっています。そのため、調査対象母集団が一致しない市区町村間でも比較が可能となるよう、図表1の通り特定の母集団のみを対象とした指標も掲載しています。 ・なお、注目している地域が設定している調査対象母集団は、「注目する地域及び管内日常生活圏域のみを表示」を選択した際に、画面下部に表示されます。この情報も参考にして、上記の表より表示する指標を選択してください。	・運動器機能リスク高齢者の割合は、当該地域内の「運動器機能リスク高齢者」（推計値）を、当該地域内の「要支援2以下の高齢者数」で除したものを意味します。 ・「要支援2以下の高齢者数」は調査データ登録時に入力した調査設計情報から取得します。 ・「運動器機能リスク高齢者」は、各調査において、下記の判定方法に調査結果が該当した高齢者です（図表2参照）。
429							※介護予防・日常生活圏ニーズ調査は、各地域における健康寿命の延伸に向けた効果的な介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みの実施に向け、またその取り組みを含む介護保険事業計画の策定・実施等に向けて活用していただくため、各市町村に実施を推奨している調査です。詳しくは「介護保険事業計画作成に向けた各種調査等に関する説明会」の資料を参照ください。

ところで、指標の意味がわからなくなったときどうする？ (3/3)

指標の内容・指標を見るポイント	指標に関する用語の説明
・本指標は、各市町村から送付された第6期日常生活圏域ニーズ調査および介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果による、運動器機能リスク高齢者の割合を示すものです。 ・運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。 ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、市区町村が独自に調査対象母集団を設定することが可能となっています。そのため、調査対象母集団が一致しない市区町村間でも比較が可能となるよう、図表1の通り特定の母集団のみを対象とした指標も掲載しています。 ・なお、注目している地域が設定している調査対象母集団は、「注目する地域及び管内日常生活圏域のみを表示」を選択した際に、画面下部に表示されます。この情報も参考にして、上記の表より表示する指標を選択してください。	・運動器機能リスク高齢者の割合は、当該地域内の「運動器機能リスク高齢者」（推計値）を、当該地域内の「要支援2以下の高齢者数」で除したものを意味します。 ・「要支援2以下の高齢者数」は調査データ登録時に入力した調査設計情報から取得します。 ・「運動器機能リスク高齢者」は、各調査において、下記の判定方法に調査結果が該当した高齢者です（図表2参照）。 ※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、各地域における健康寿命の延伸に向けた効果的な介護予防・日常生活支援総合事業の取り組みの実施に向け、またその取り組みを含む介護保険事業計画の策定・実施等に向けて活用していただくため、各市町村に実施を推奨している調査です。詳しくは「介護保険事業計画作成に向けた各種調査等に関する説明会」の資料を参照ください。

2つの指標：緩やかな因果を考える

問い 「何をどうすると、介護が必要な高齢者を減らすことができるだろうか？」

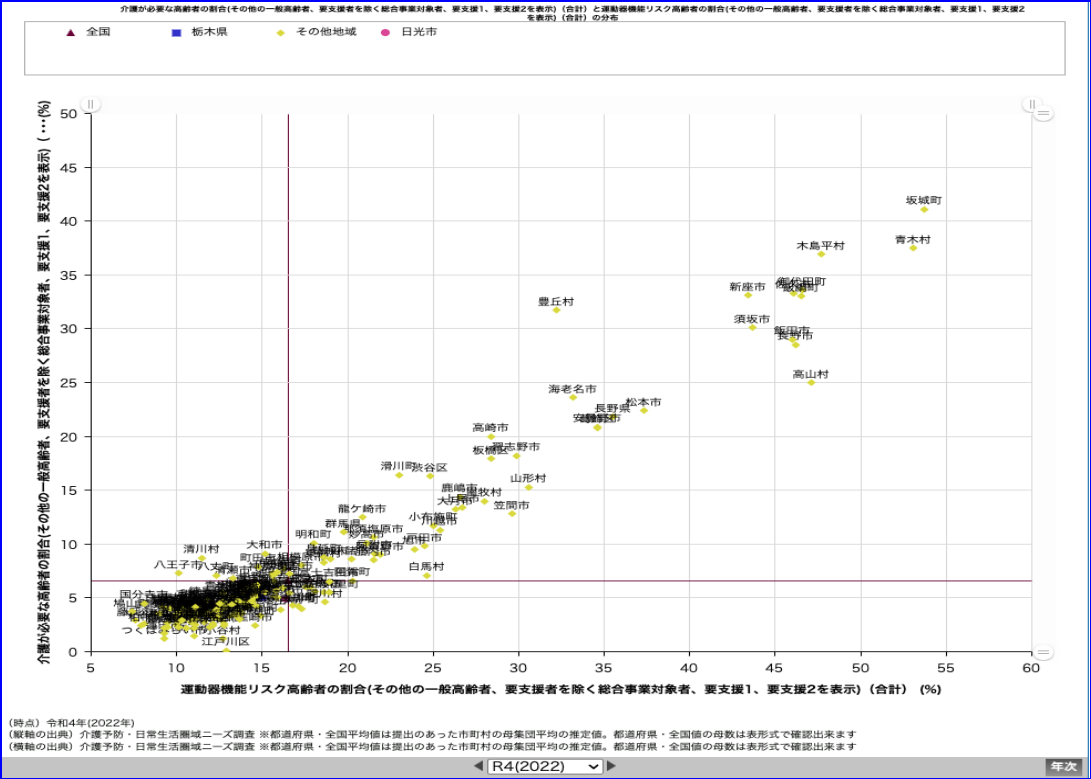


図 「介護が必要な高齢者割合」と「運動器機能リスク高齢者割合」の散布図

2つの指標：緩やかな因果関係を想定する

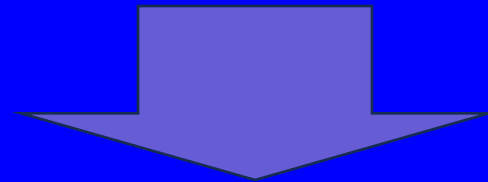
- 散布図から何を読み取るのか？

→ 因果関係の「可能性」

原因の視点

運動器機能にリスクがある高齢者を割合を減少させると

結果の視点



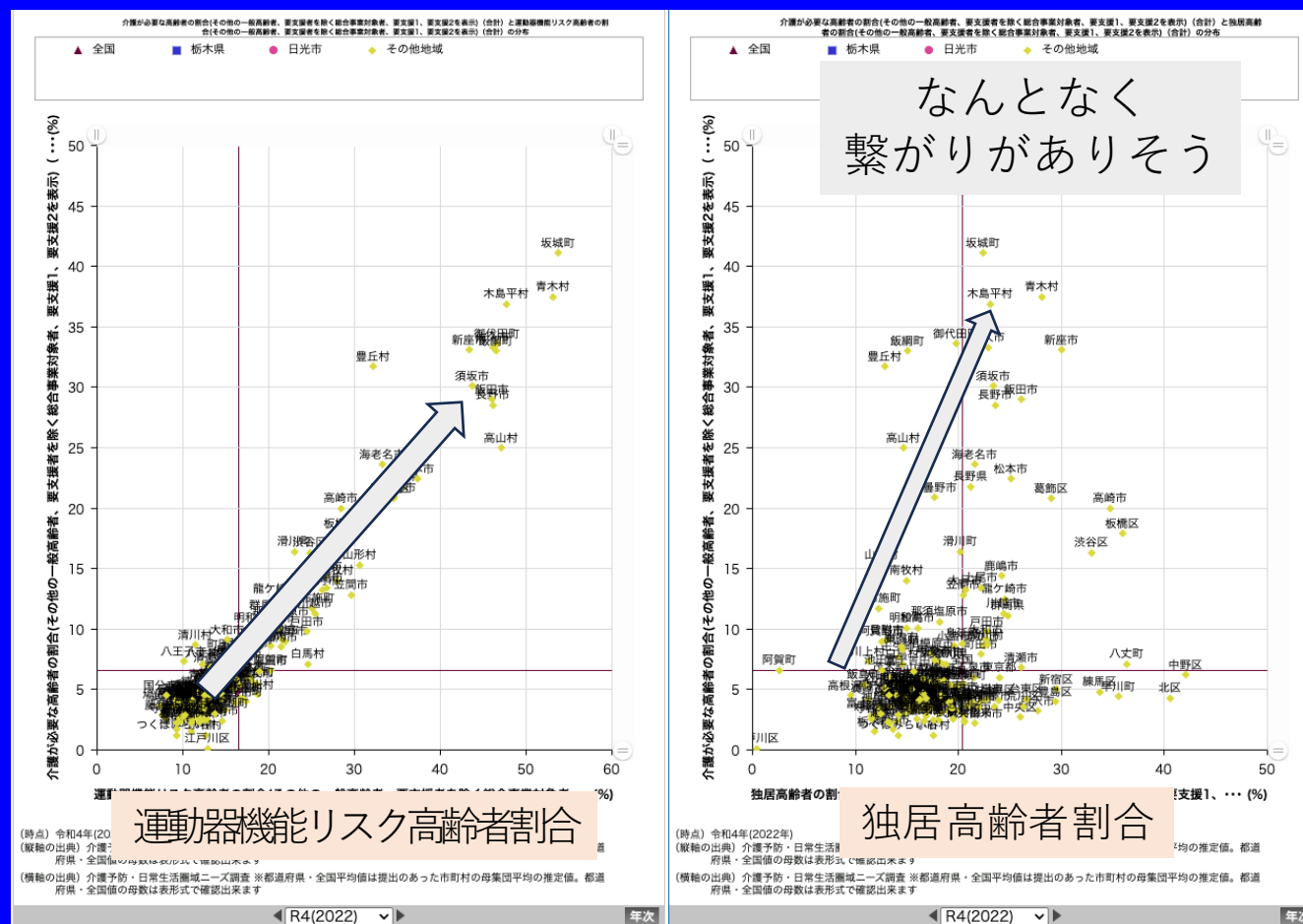
介護が必要な高齢者の割合を減せる

という可能性があるのではないか？

2つの指標：緩やかな因果を想定する

問い 「どんな指標を選べぶといいのか？」

縦軸は介護が必要な高齢者割合



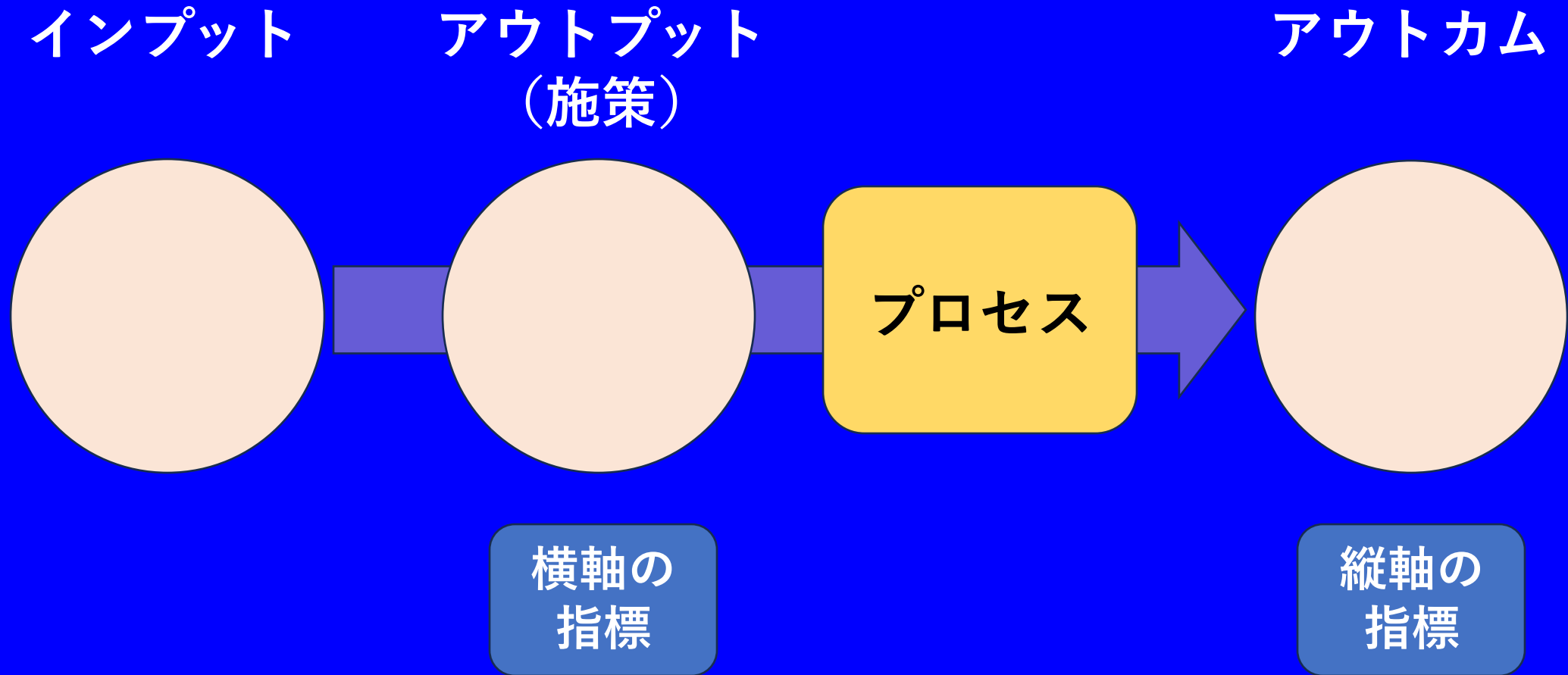
2つの指標：緩やかな因果を想定する

- その組み合わせは、施策の検討に役立つ？
 - 「介護が必要な高齢者割合」と「運動器機能リスク高齢者割合」
 - 「介護が必要な高齢者割合」と「独居高齢者の割合」



高齢福祉を所管する立場から、
独居高齢者の割合を減らす、という施策はありますか？

2つの指標：緩やかな因果関係を想定する



チャレンジ2

- 「二つの指標を組み合わせる」の機能を使います。
- 膝や腰が悪くて転びやすいといった運動器機能が低下した高齢者を少なくするには、どのような事業を創発したり、強化するとよさそうですか。
- 横軸に、どの指標を用いるとその可能性を把握しやすくなりますか。
 - 縦軸：運動器機能リスク高齢者割合
 - 横軸：探してみましょう。

シェア 2

1. このチャレンジは、全体でシェアします。
2. どのような取り組みがよさそうか、紹介してください。
3. そのとき、どの指標を横軸に設定しますか？
4. 可能であれば、散布図を「画面を共有」で共有してください。

2つの指標：緩やかな因果関係を想定する

- 「つながり」があれば、必ず因果が成立する？
→ **いいえ。可能性の高さを直感的に読み取れます。**
- 確実ではないけど、散布図を使うメリットは？
→ **経験や前例、大きい声を尊重しつつ、
定量的に施策を検討するプロセスを確保できます。**
- 散布図から取組（事業）の効果はわかる？
→ **効果はわかりません。**

まとめ

◆本日の到達目標

- 見える化システムを使ったグラフの描画の習得する。
- 2つの指標を使ったグラフが示す意味を読み解けるようになる。

◆学習した図の読み解き

- 「つながり」をみる
- 緩やかな因果を想定する

◆次回Step 4の到達目標

- データ結果と事業の状況を結びつけて考えることができるようになる。

次のようなご相談は、ご遠慮なく連絡ください。

- ◆ 本研修後（4回分）のフォローアップ
- ◆ 介護保険事業（支援）計画などに関する委員会の委員、アドバイザー等
- ◆ 見える化システムの活用に関する関係者向けの研修
- ◆ ニーズ調査等の調達仕様書の設計に関すること
- ◆ その他、自己紹介のページ内容を含め、幅広く、地域包括ケアに関すること

埼玉県立大学 吉田俊之
yoshida-toshiyuki@spu.ac.jp